

経営比較分析表（令和3年度決算）

千葉県 香取市

業種名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率 (%)
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
	令和4年12月31日 全施設	令和16年3月24日 与田浦太陽光発電所	無
売電先	地産地消の見える化率 (%) ※1		
株式会社成田電工エネルギー	-		

※1 行政区域内の需要に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

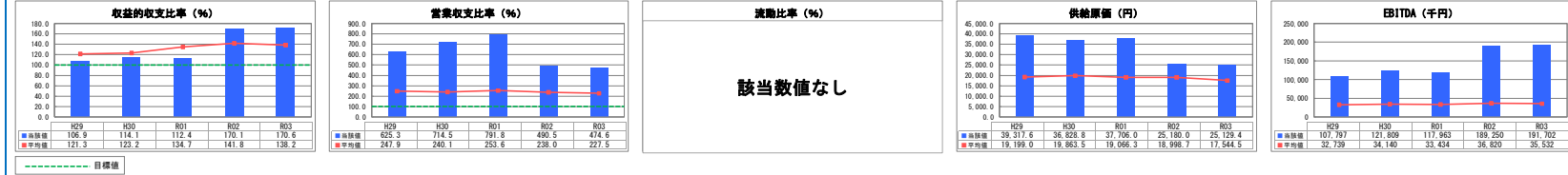
年間発電電力量 (MWh)	H29	H30	R01	R02	R03
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	6,089	5,955	5,791	5,673	5,786
合計	6,089	5,955	5,791	5,673	5,786
	F I T以外	F I T			合計
年間電灯電力量収入 (千円)	6,431	214,369			220,800

剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）	
太陽光発電施設維持管理基金積立金	30,000千円
一般会計への繰出	-
目的：一般会計の生活環境向上施策推進事業	61,921千円
翌年度への繰越（実収収支）	15,547千円
剰余金（実収収支）は、全額繰越金として扱います。	
太陽光発電施設を設置する際に、今後の大規模改修等を見据え、毎年1,000万（現在は施設増に伴い3,000万）を積立することとしています（太陽光発電施設維持管理基金）。	
生活環境向上施策推進事業については、収益が天候に左右されること、また収益に対する経費及び上記基金との兼ね合いで調整し決定することもあり、決まった額はありません。	
大規模改修等の財源となる基金積立を着実にしつつ、黒字を堅持する方針です。	

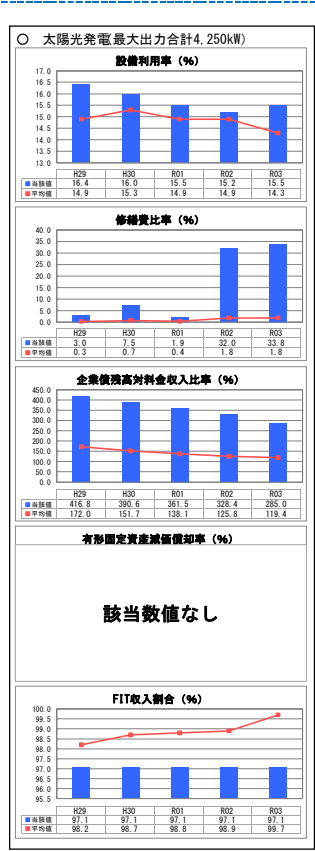
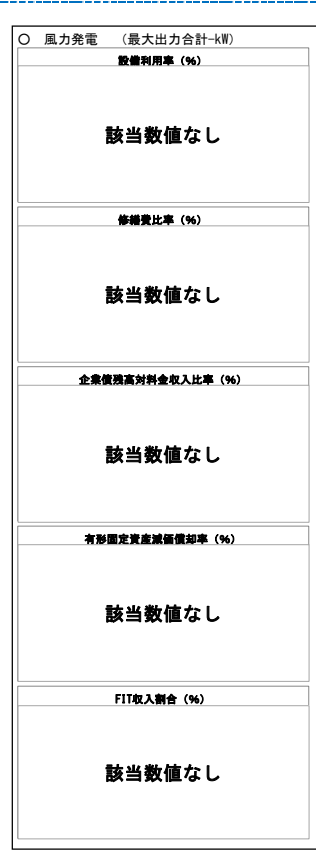
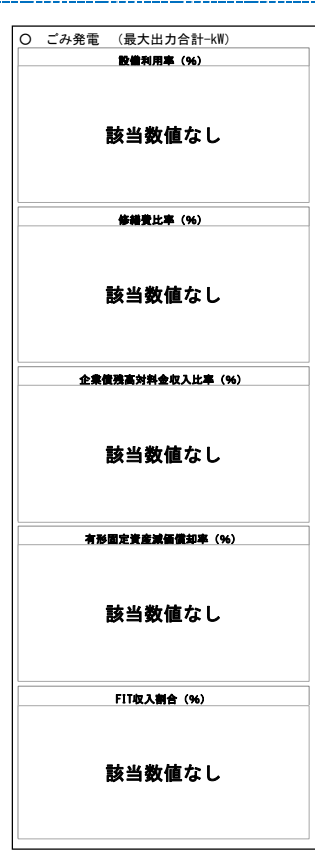
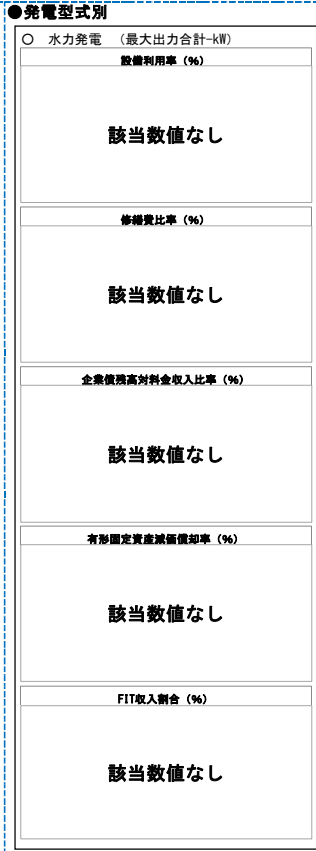
分析欄

- 経営の状況について
 - 収益的収支比率
気象状況及び太陽光パネルの交換により発電量が増加したものの大規模修繕費となり、ほぼ横ばい傾向となっている。
 - 営業収支比率
単年度の営業収支は黒字であるが、健全経営を続けていくために、大規模修繕費を見据えた基金積立を着実に進めている。
 - 設備原価
施設の耐用年数より短い期間で借入れを行っているため償還開始が早く、それに伴い償還額が多いことから高い供給原価に繋がっている。
 - EBITDA
本稼働前であった平成25年度を除き収益性が確保されている。気象状況及び太陽光パネルの交換により発電量が増加したものの大規模修繕費となり、ほぼ横ばい傾向となっている。

1. 経営の状況



2. 経営のリスク



- 経営のリスクについて
 - 設備利用率
太陽光発電事業は天候等環境的要因に左右されるが、施設の適正な維持管理等により発電効率の維持に努める必要がある。
 - 修繕費比率
伊豆山発電所外3発電所について、5年毎に必要な機器交換及び精密点検を行ったために令和2年度と比較して修繕費比率が上昇した。
 - 企業債残高対料金収入比率
全国平均値より高い値となっているが、企業債残高が減少傾向である。
 - FIT収入割合
稼働当初は固定価格買取制度のみであったが、平成28年度から売電先の変更により、固定価格買取制度からの買取となったため、FIT収入の割合が全国平均値より下回っている。調達期間終了後は、収入の減少が見込まれる。

全体総括
現状において、経営の健全性及び効率性は確保されているが、今後の大規模修繕等の財源について基金積立を着実に進め、計画的な維持管理を行う必要がある。なお、今後の経営の指針となる経営戦略を策定中である。

※平成25年度から令和3年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT収入割合については、令和3年度の団体数を基に平均値を算出しています。